美幌博物館研究報告　執筆要項

1. 美幌博物館研究報告（BULLETIN OF THE BIHORO MUSEUM）は、美幌町およびその周辺地域に関する報告、館収蔵標本を題材とした報告などを掲載する。掲載内容は、未発表のものとし、生物学（分類、分布、生態、行動など）や考古学、美術史などに関する論文を対象とする。発行は年 1 回。原則、校了順の掲載とする。刷り上がりは、B5 サイズ、1 行文字数 45 字、1 ページ行数 36 文字。本誌は、博物館関係施設や希望者に配布しタイトルと要約は web 公開するが、内容によって、生物種の乱獲や環境かく乱等に利用されてしまう可能性もあることから、全文の web 公開はしない。年度内の投稿締め切りは 11 月末日とし、それ以降の原稿は翌年の掲載とする。

2. 著者

   所属の有無を問わず広く受けいれる。

3. 原稿の種類

   ①原著論文：新たに得た知見をまとめ考察した論文

   表紙ページ、Summary、要約、本文、謝辞、引用文献、図表の説明、図表

   ※基本的に刷り上がり 10 ページを目安とする。

   ②短報：新たに得た知見をまとめ考察した論文

   表紙ページ、Summary、要約、本文、謝辞、引用文献、図表の説明、図表

   ※刷り上がり 4 ページ以内の短い報告

   ③特集：美幌博物館がテーマを決め、執筆を依頼した複数の論文

   表紙ページ、Summary、要約、本文、謝辞、引用文献、図表の説明、図表

   ④総説：これまでの総括と今後の展望をまとめた論文

   ⑤意見：美幌博物館とそれに関わる分野に関する有益な情報やトピック

   ※④⑤については、自由に区分けすることができるが、刷り上がりは基本的に 10 ページ以内とする。

4. 表紙ページの書き方

   原稿の種類、表題（日本語と英語を並記）、著者名・所属（日本語と英語を並記）、責任著者の氏名・郵便番号・住所（日本語と英語を並記）、E-mail を記入する。

5. Summary と要約の書き方

   Summary は論文の内容を適切に表現する英文 300 語以内で、1 パラグラフに記述する。

また、あわせて日本語（400 字以内）の要約を作成する。
英語はイギリス英語を基本とする。日付は 2020 年 8 月 20 日の場合は、20 August 2020 と表記する。

6. 本文（原稿の書き方）

原稿は、A4 版の用紙に横書きとし、上下左右の余白は 2.5 cm 以上とする。原則として、文字は 12 ポイント、行間はダブルスペースとし、1 行 25 文字、1 ページ 25 行を目安とする（原稿約 2 ページが刷り上がり 1 ページ（図表を除いた場合）に相当する）。

本文の構成は、「Ⅰ．はじめに」「Ⅱ．調査地と調査方法」「Ⅲ．結果」「Ⅳ．考察」「Ⅴ．おわりに」「Ⅵ．引用文献」にする。ただし、短報については、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの頭出しは行わない。本文には、通しページ番号を下段中央に付し、行番号をつけること。

英数字は半角に、句読点は「、」「。」を使用し、文末は、「…である。」「…した。」とする。数字は算用数字、年号は西暦を用いる。単位は mm、kg などで示し、数字と単位の間には半角スペースを入れる。数字、カンマ、ピリオッド、セミコロン、カッコなどの記号は、全角フォントを使用せず半角を使用し、記号の後は半角スペースを必ず入れる。

生物名は和名（カタカナ）を用い、本文の初出の箇所には学名（イタリック）をつける。命名者、命名年については任意で構わない。

7. 引用文献の本文中の記述については、下記の例に従う。

著者が 1 名の場合

『宇野（2012・2013）は、…』

『…が示されている（宇野, 2012a, b; 宇野, 2015, 2016）。』

著者が 2 人の場合

『鈴木・田中(1982)は、…』

『…が示されている(Suzuki & Tanaka, 1980 ; 鈴木・田中, 1982)。』

著者が 3 名以上の場合

『鈴木ほか(1987)は、…』

『Suzuki et al. (1985)は、…』

『…が示されている(Suzuki et al., 1985)。』

※et al. はイタリックにしない。

8. 引用文献リストの書き方

引用文献リストは、英文・邦文に関わらず、著者名（第一著者、それ以外に関わらず）のアルファベット順、著者名が同じ場合は発行年順に並べる。著者が複数の場合（日本語記載でない場合)、ファミリーネームはフルネームで記載し、ミドルネーム、ファーストネームは省略アルファベットとする。雑誌名はできるだけ省略しない。また、ニュースレターや会報など学術的に不適切と考えられる引用は避け、やむを得ず引用する場合は最小限にとどめる。

●論文を引用する場合【著者名 (発行年) 表題. 雑誌名, 巻: 初項-終項】

Higuti M, Goto A (1996) Genetic evidence supporting the existence of two distinct species in the genus *Gasterosteus aculeatus* around Japan. Environmental Biology Fishes, 47: 1-16

佐々木恵一, 長尾　康, 鈴木敏春 (1993) 北海道のカミキリ科の分布について. Jezoensis, 20: 49-163

Machida Y, Akiyama YB (2013) Impacts of ivasive crayfish (*Pacifastacus leniusculus*) on endangered freshwater pearl mussels (*Margaritifera laevis* and *M.togakushiensis*) in Japan. Hydrobiologia, 720: 145-151

●本の全ページを引用する場合【著者名 (発行年) 表題. 出版社, 出版社の所在地】

木元新作, 保田信紀 (1995) 北海道の地表性歩行虫類. 東海大学出版会, 東京

Williamson M (1981) Island Population. Oxford University Press, Oxford

※本の場合は、出版元と出版元の都道府県を明記する

●本の一部ページを引用する場合

【著者名 (発行年) 表題. (本の著者名) 本の表題, 初項-終項. 出版社, 出版社の所在】

梶　光一 (1998) エゾシカ. (中川　元・大泰司紀之編) 知床の動物, 155-180. 北海道大学図書刊行会, 北海道

Geist V (1982) Adaptive behaviorl strategies. (Thomas JW, Toweill DE eds.) In Elk of North America, 219-277. Stackpole, Harrisburg

●web ページを引用・参考とする場合

【web ページの管理者　(発行年) 表題. URL (閲覧年月日)】

環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室 (2005) 外来生物法 要注意外来生物リスト：無脊椎動物(詳細)タイワンシジミ種群に関する情報. http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/caution/detail_mu.html#10 (2010 年 12 月 18 日閲覧)

●新聞の引用【新聞の名前 刊面 (年月日) 記事名】

引用文の後にカッコ書きで記載。

…(経済の伝書鳩 2 面 (20080912) 網走湖で外来魚種捕獲) 。

9. 表

表は 1 つずつ別紙に書くこと。1 つの表は B5 1 ページに印刷できる大きさにする。1 ページを超える表は 2 つ以上に分割する。表には「表 1」のように通し番号加え、各表にも番号を記載する。言語は、日本語と英語を併記することが望ましい。

10. 図

図（写真を含む）は、詳細に 1 枚ずつ描く。作図や撮影者が著者とは異なる場合は、そのことを明記し、また必要な場合は著作者に許諾を受ける。図には「図 1」のように通し番号を加え、各図にも番号を記載する。言語は、日本語と英語を併記することが望ましい。

11. キャプション

図および表にはすべてキャプションを設け、キャプションは和文と英文を用意する。

12. 著作権

掲載された報文の著作権は、原稿が受理された時点で美幌博物館に帰属し、許可なく複製や公開等することを禁止する。図表の転載については、美幌博物館の許可を得て行い、本誌からの引用・転載であることを明記する。

13. 別刷

責任著者には、別刷 50 部と掲載年度の研究報告を無料で配布する。

14. 査読

外部機関への査読依頼は行わないが、論文内容や原稿に不備があると編集担当の美幌博物館学芸員が判断した場合は、投稿者にその折を通告し、改定を求める。また、編集担当より文章の校閲を行い、文章表現について相談する場合がある。改定や相談があった場合は、指定日までに返信し、変更箇所にはハイライトを加える。重大な事実誤認、個人や団体の中傷、商業目的、法令違反など、掲載が不適当であると判断した場合は、理由を明記して投稿者に返却する。

15. 編集

編集は、美幌博物館学芸員が行い、図や表のスタイル統一を行う場合がある。著者によ

る校正は原則として初校のみとし、それ以降は美幌博物館学芸員が行う。また、著者は初校を受領した後、指定日までに校正を行い、返送する。

16. 電子的補助資料について

電子的補助資料（Electronic Supplementary Material: ESM）は、「美幌博物館ホームページ」を通じて公開する。データの作成から掲載までの過程ならびに注意事項は下記を参照し、不明な点は確認すること。

掲載データ

動画データ、音声データ、超高解像度画像、多数の画像、巨大な表データ等を掲載対象とする上記以外のデータ類については原稿の執筆前に掲載の可否を編集委員長に確認すること。

ファイル形式

一般的なファイル形式とする。ただし、内容を担保するデータとなるため、第三者による閲覧・利用が容易となるファイル形式にすること。

データサイズ

ファイル 1 点あたりの最大サイズは 50Mb とする。ただし、動画データなどは可能なかぎりサイズを圧縮すること。

原稿中の記載方法

原稿中における ESM データの表現は「ESM」と記載し、各 ESM データについても本文の終わりに英文による説明を付ける。本文中の配置規則は「図」、「表」および「ESM」の順とすること。（例）：（図 1；表 1；ESM 1）。

公開

ESM データは、公表日に即オープンアクセス化される。

著作権

著作権を全て美幌博物館に移譲する。

17. 原稿の送付先・問い合わせ先

美幌博物館　学芸担当宛

〒092-0002　北海道網走郡美幌町字 253-4

TEL: 0152-72-2160/FAX: 0152-72-2162

E-mail: museum@town.bihoro.hokkaido.jp

※E-mail の場合は E-mail で、郵送の場合は郵送で著者に連絡をする。2 週間以上経っても連絡がない場合は、上記に問い合わせること。

（2009.1.11 作成, 2013.5.16 修正, 2014.2.18 修正, 2016.9.2 修正, 2018.8.29 改訂, 2019.1.17 改訂, 2022.12.20 修正, 2023.4.15 修正, 2023.12.15 修正, 2024.1.30 修正）